

井戸端だより

第41号

発行日：2003. 3. 28

発行：くらしの学習会

も く じ

1月例会報告

～ 1P

2月例会報告

重信川砂防資料館を見学しました ～ 2P

重信川砂防資料館を訪ねて ～ 3P

四国山地直轄砂防事業のパンフレットより抜粋 ～4P

資料…重信町水と緑の癒しの道 ～5P

四国のみずべ八十八カ所 ～6P

合併協議会を傍聴して

～13p

3月例会報告

～7P

冬の庭

～75P

行って見た

ニュージーランド

～8P

【1月例会報告】



1月18日(土) 11時より林さん宅に於いて、総会及び新年会を開催しました。この日、会員の渡部さん、大野さん、阿部さんが参加して下さり、賑やかな総会となりました。

初めに2002年度の会計報告があり、ここ数年、次期繰越金が増加しているので、2003年度は活動費を有効に使った行事を盛り込むことになりました。

その後、阿部さんから市民派ならではの視点で、この4年間、環境問題の他幅広い分野にきめ細かな活動がなされとことを話されました。

後日 2月4日の新聞報道で

- ★ 教育長の副知事選任同意議案への反対討論を「不適切」として、県議会の議会運営委員会が全会一致で決めたこと。
- ★ 県議会での県議の討論内容を、議会運営委員会が事前に審査するのは、四国でも愛媛県だけであること。

との記事に市民は議員の大変さが見えた気がしました。

午後の予定のある3人が帰られた後、会員のお手製のちらし寿司・しし汁をいただきながら、四方山話に花を咲かせ、午後からの参加者を加えて、今年度の活動について話し合いました。昨年は皆さん忙しく、外での活動ができなかったので、今年度は戸外での活動を多く企画することになりました。

早速 2月14日(金) 重信町砂防資料館見学

(昨年12月11日横河原にオープン)

3月24日(月) 林さんよりニュージーランド旅行の話を聞く

(丹原町へいちご狩りの予定でしたが、3連休の後なので、あまり収穫ができないだろうと、来年へつなくこととしました)

今後の予定として 春頃 山本栄治さんの話を聞きに小田深山へ
秋頃 犬伏先生と古民家見学

この他にも、何か良い企画がありましたらお知らせ下さい。「大人の遠足」みたいでワクワクするような一年が過ごせたらいいですね。 (A. M)

【2月例会】 重信川砂防資料館を見学しました

2月14日、よく晴れた日の午前中、横河原の水天宮東隣りにある「重信川砂防資料館」を見学しました。

ガラス張りの洒落た建物の中に入ると、電飾で表示される重信川流域の地形の模型（大きい！）や電動の土石流模型実験装置、その他のミニ模型などが展示されていました。これらの模型により、砂防のしくみについて体験的に学ぶことができるというわけです。さらに、大型テレビモニターで放映されている砂防に関するビデオや周囲の大型パネルでは、砂防についてはもちろんのこと、重信川の地形と地質、気象などについても紹介されていました。ここに行けば、ちょっとした「砂防博士」になれそうです。

また、平成11年9月15日に愛媛に上陸した台風16号による被害（主に川内町のもの）も、写真パネルで紹介されておりました。自然災害の怖さをあらためて意識させられました。

しかしながら、だからといって、砂防ダムや流路工をどんどんつくり、川をただの水路にしてしまうことへの抵抗感も感じました。工事後の川を見ていると、なんだか息が詰まるような印象を受けるのです。やはり、地域住民がどんな環境の川と付き合いたいのか、どこに何が必要なのかという意見を、きちんと丁寧に拾い上げた上で、川づくりに取り組んでほしいものです。

と思ったら、住民に参加するチャンスが与えられつつあるような気配が感じられました。「重信川の自然をはぐくむ会」の発足です。行政、大学、NPOなどが集まって、重信川の自然環境を保全し、創出、再生してゆくことを目指すことになったというのです。多様な人が集まれば多様なアイデアが生まれますから、もしかしたら画期的な川づくりの取り組みになるかもしれません。このような取り組みは、少なくとも国土交通省の中では初めてなんですよ！ 楽しみです。今後に期待して、資料館から帰宅しました。

なお、この資料館の開館時間は、平日の午前9時から午後4時まで（土・日・祝祭日は休館）となっています。ついでに折にでも、ぜひ見学してみてください。あ、そうそう、白渚谷堰堤（だったかな？）のイノシシやコイの模様は私の好みではありませんでした。皆さんはどう感じられたのでしょうか。（T. S）

重信川砂防資料館を訪ねて

重信川砂防出張所の隣にオープンした資料館の見学に行きました。日頃、あまり、気にしない場所でしたが、職員の方の説明を聞いていると、平成11年の川内町の災害が思い出されました。

平成11年9月15日 台風16号の影響で、川内町では土石流が発生し、人災はなかったものの重信町、川内町で 床上浸水20戸、床下浸水150戸などの被害が発生しました。重信川流域は降った雨がすぐに川に流れる地形のため、過去には多大な被害が起こり 砂防施設整備が必要不可欠な地域として、昭和23年より国の直轄砂防事業が始まりました。台風16号の被害は、川内町の障子ヶ谷雨量観測所の測定値、最大時間雨量121mm、連続雨量308mmという突発的雨量のためでしたが、各所の堰堤の効果で土石流が人家にまで流れず ほとんど 防せぐことができました。しかし、田畑や山林の被害は想像を越えたものでした。当時の写真が資料館には展示してありましたが、自然の怖さは人工的なものでは太刀打ちできないのでは？とも思ってしまいました。頻繁に起こり得る災害ではないし、忘れたころにやってくる事ですが、川の砂防工事の重要性を認識しました。今回は、砂防についての説明を職員の方から受けましたが、資料館の設備（タッチパネル、写真等）だけでも充分理解ができます。気軽に見学されることをおすすめします。

又、松山工事事務所からの出張説明もありました。河川法改正に伴い、治水・利水・環境の3本柱で河川整備の計画をするようになったということです。重信川についても住民や学識経験者の意見を話し合う会、 仮称「重信川の自然をはぐくむ会」を立ち上げて、意見交換をして 自然環境を守り育てる仕組みを計画するということでした。

10年前、くらしの学習会の初期の活動で龍沢泉の大掃除をしたことがありました。当時、泉に降りる辺り一面、産業廃棄物のゴミ捨て場になっていて、家電製品 衣類 本 ビン 缶等の莫大な量の物がありました。土の中にも埋まっていた。今ほど産業廃棄物の規制もなく、本来の管理者の皆さんも手の施しようがなかったのでしょうか。しかしながら、私たちが掃除をした後、地域の人たちの奉仕できれいに管理されるようになっていきます。下草が処理されて、きれいな場所になりました。

松山工事事務所からいただいた重信川中硫編のパンフレットの地図の中に 龍沢泉の場所がしっかりと示されてありましたが、10年前の光景では隠したい場所だったはず。地域の皆さんたちの泉に対する日々の努力の結果だと思いました。(M. T)



☞ 砂防の目的と計画について

水源山地の荒廃を防止し、急流荒廃河川から流される大量の土砂を人為的にコントロールし、土石流やがけ崩れによる直接的土砂災害を防止し、さらに、本川河道の治水施設や多目的ダム等の貯水池を保全し、治水の安定を図ることを目的としています。また砂防計画は、豪雨によるがけ崩れ、地すべり、河床・河岸の侵食にともなう土砂災害を防止するために、計画区域内に砂防堰堤、流路工、護岸工等の砂防施設を配置して、合理的かつ効果的に生産土砂を処理するよう樹立され、これに基づいて事業が行われています。

☞ 砂防工事の種類

① 護岸工

曲流する河川の水衝部の溪岸を保護し、侵食、山腹崩壊を防止します。

② 魚道

砂防堰堤や床固によって 魚類の生息環境を遮断しないよう配慮します。

③ 山腹工

崩壊地やはげ地に植林をし、水源地域の土砂生産を防止します。

④ 地すべり対策

地形、地質、地下水などの状態を変化させることによって、地すべりを停止させたり、緩和させたりする抑制工（排土工、表面排水路工等）と力で地すべりの一部または全部を抑える抑止工（アンカー工、くい工等）の中から組み合わせたり、単独使用したり、適正な方法を選択して実施します。

⑤ 砂防堰堤

上流からの流出土砂を貯留することはもちろんのこと、土砂を貯めることにより、河床勾配が緩くなるので、今まで川底や河岸が侵食されていたのを防止したり、河岸が崩壊するのを防止したり、流出土砂を調節したりもします。

⑥ 床固工群

河床勾配を緩やかにして、侵食による新たな土砂生産を防止するとともに河床を固定し、堆積物の再移動を防止するとともに、護岸工事等の工作物の基礎を保護します。



AA
東は公園として整備され、1.2haの広大な敷地には情緒あふれる湧水池や児童遊園地の全般的な水百選にも選ばれた有名な泉。



錦水泉(錦沢泉) さんずいずみ(たつさかいずみ)
重信川沿いにあるこの泉は周囲をクス平林に囲まれ、自然の状態が維持されている美しい泉。そのための管理こそ少ないが水生植物も豊富で、魚も身近な種類が多く生息している。



柳原泉 やなぎはらいずみ
この地に住む先人達が多大な労苦を払って開発した泉。その歴史は300年近く、周辺にある泉の先駆けとなるもの。うっそうとした林に囲まれ、たくさん水生植物や魚が生息している。



お吉泉 おきいずみ
その名の通り、お吉という畑にまつわる美しい泉の伝説が残る泉。泉の天然記念物「オキチモスグ」が有るで、カワゴケなどの水生植物が生育所に繁殖し、ツカハヤといった魚も多い。



地図縮尺 0 500m 1km
1/22000
時速15kmで走ると約4分

●「計画ルート」については、具体的な位置等を確定したものではありません。
●この地図の作成に当たっては、建設省国土院院長の承認を得て、関係発行の2万5千分の1地形図を複製したものです。(承認番号 平成12年度 第176号)
●平成12年7月1日現在

- 既設トイレ(固定)
- 既設トイレ(簡易)
- 既設駐車場
- 公園
- バス停
- ガソリンスタンド
- コンビニエンスストア
- カフェ
- 既設自転車道
- 完成ルート
- 計画ルート
- 水道利用ルート
- 国道
- 県道
- 市、町道



重信川自然再生整備方針を提案

「はぐむ会」が会長
重信川を動植物が豊富な川に変えていこうと、「重信川の自然をはぐむ会」(会長・矢田部龍一(愛媛大学工学部教授)の第二回会合が二十五日、松山市文京町の愛媛

大学工学部本館会議室であつた。同会は重信川河川整備計画に住民の意見を反映させることを目的に、一月に設立された。委員は地元の大学やNPOなどの活動団体、河川管理者ら。

この日は関係者約三十人が出席。事務局側が同

会委員らと考案した重信川水系の現状、今後の整備方針を示した「重信川いきいきネットワーク計画案を説明。この中で、河畔林の再生や水質改善の重点区域を定めるなどの具体的な提案があつた。

委員からは「公園は造つたら出来上がりという

ものではなく、住民が集まって維持管理をしなればならないような公園にしていくべきだ」など、活発な意見が出た。

次回には保全のための人的ネットワークの構築といった大学やNPOができる具体策などをテーマに、四月下旬ごろ開かれる予定。

マゴシン泉
これまで手つかずの状態にいたが、泉というよりも池に近い状態となっている。ホテイアオイやナギタテの群生は一見の価値があるかも。



重信川かすみの森公園
重信川沿いの広々とした敷地に設けられた公園。芝生敷きの園内には大樹の柱があり、その木陰で遊べたり、お弁当を広げたりと、思い思いに楽しむ家族やカップルの姿が絶えない。



森の木泉 もりのきいずみ
周りに高い雑木林などもなく、泉全体の目当たりもバツグン! 場所によって水源が異なり、変化に富んだ様子を見ることが出来る。ここも、開発からおよそ200年以上たっている泉。



四国のみずべ

八十八カ所



*みずべの番号は仮のものです。



お問い合わせ先
「四国のみずべ八十八カ所」実行委員会事務局
 (国土交通省 四国地方整備局 河川部 河川管理課内)
 〒760-8554 香川県高松市福岡町4丁目26-32 TEL:087-851-8061(代表)

【3月例会報告】

3月24日（月）林さん宅

* **林さんよりニュージーランドの旅の話聞く**

それを基に意見交換をする。

- ・ 日本とニュージーランドの森林事情の違い。
- ・ 日本は森林に携わる人が少なく手入れができていないために保水力もなくなり、水不足、ひいては花粉症にも大いに影響している。
- ・ 人件費が高いため、価格競争には負ける。



* **イラク攻撃について**

- ・ なぜ攻撃をしなければならないのか。
強い国を自認するアメリカの奢りではないか。
- ・ 権力を持ちたがり、さらに拡大しようと同じ人間を殺し苦しめる権力者に憤りを感じる。
- ・ 湾岸戦争から引きずっていることであり、9・11のテロで加速し、今回の攻撃に繋がっている。
- ・ 国際秩序を維持する国連の機能が果されなくなっている。
- ・ アメリカは独走し安保理は分裂し米、仏、独には深い亀裂が入ったままだが、今後どうなるのか。
- ・ 国連安保理の決議を得ないまま、米英両国はイラク攻撃に踏み切った。
いち早く、これを支持すると声明した日本政府の選択は正しいのか。
- ・ 日本国内のこと、国民の心情から考えると絶対に戦争はいやだ。が、為政者としては、地球規模での判断をしなければならず苦しいところもあるのではないか。
- ・ 世界各国は、経済制裁を懸念して態度を明らかにしにくい。
- ・ 人間の盾として、イラク市民と行動を共にしている日本人の心理は。
- ・ 早々と投降した、イラク兵士これも作戦の一つでは？ ... etc

* **合併について**

- ・ 重信町・川内町の両議会が3月議会で法定協議会に移行を議決した。
- ・ 3月27日重信町役場にて第一回の法定協議会が開かれる。

* 先日日本農業賞の大賞を受賞された、牧秀宣さんが作られた「もち麦」を会員で試食してみることにした。（白米に入れて炊く）（S.K.）

行ってみた ニュージーランド

昨年夏、主人の入院・手術で、10数年ぶりに計画していたヨーロッパ行きを断念した。そんなこともあってか、銀婚式を迎えたからか、夫がニュージーランドのロトルアの国際学会行きに誘ってくれた。普通の旅行というわけではないが久しぶりに外国で色々なものを見聞きできる機会を得たことはうれしいことだった。

3月9日朝、名古屋を出てマレーシア航空でまずクアラルンプールへ、それからオーストラリア・ブリスベンを経由して、ニュージーランド・オークランドに到着した。あいにくの雨。空港で予約してあったレンタカーに乗り、その日はオークランドのホテルに泊まった。

次の朝早く出て、一路ロトルアへ。この日も雨。途中の風景は牛、羊の牧場ばかり。時々馬もいて、何故か馬はレインコートを着ていた。車が日本と同じ左側通行、走っている車は日本車がほとんどで全く違和感がない。地図を見ながら目的地に向かった。途中事故のため一番近道の国道が閉鎖していたため迂回を余儀なくされた。途中交通事故の現場にも遭遇した。反対車線を下りてきた車が、スピードの出し過ぎか、道路脇の草むらへ飛び込んでひっくり返って止まった。すると、走っていた車が一斉に止まって、助けに行った。私たちも一旦止まったが、ここでは訳も分からない外国人なので、助けにならないと判断して先を急いだが、この光景は気持ちの良いものだった。近くに人家もなく、きっと救急車が来るまで時間もかかるのだろう。お互いに助け合う精神が根付いているのかもしれない。

予定を大幅に過ぎ、学会会場ロトルアに到着。硫黄のにおいが一面立ちこめる。ここは温泉地なのだ。会場のホテルに入ったのが、11時頃。基調講演の終わりの方だった。12時から立食のランチパーティー。日本から来た先生がた、旧知の外国人研究者との再会を喜ぶ。夫のよく知っている先生の奥様にもお会いでき、話も弾む。午後の学会プログラムを終え、夕食を近くのレストランで済ませ、ホテルの近くのロトルア湖畔を散歩する。公園の中の飲み物の自動販売機が檻の中に入っていたのには驚いた。ここまでして自動販売機を置く必要があるのか。

次の日は素晴らしい晴天。主人がフリーだったので、朝からロトルアの主要な観光地を回った。ロトルアはマオリ文化の本拠地。まずファカレアレアという地殻活動の活発なところ、マオリ文化の中心地を訪れる。30mにも吹き上げる間欠泉を目の当たりにして、地殻活動のすごさに驚く。マオリの人たちはこの熱を利用して、料理を作る。日本で言ったら温泉卵と言ったところか、鶏肉でも野菜でも調理に利用する。ニュージーランドのラグビーチーム、オールブラックスの勝利の叫びはマオリの人たちのものだ。入れ墨をして目を大きく見開き舌を出して踊るのは、滑稽でもあるが興味深い。マオリの言葉「キオダ」は、こんにちはにもさようならにも使える。挨拶は、お互い鼻と鼻を2回くっつけて「キオダ」と言い合う。レストランでも土産物屋でもマオリの人が必ずいるが、これは必ず何割かを雇わなければならないと言う法律があるのかもしれない。実際に差別がないかどうかは分からない。フルーツのキウイの名の元の鳥のキウイを見たくて、動物園へ行く。キウイは夜行性で、くらい檻の中を探したが、一羽は完全に寝ていたし、1羽はお尻をこちらに向けて餌を食べていて、キウイ特有の嘴の長い姿を見ることはできなかった。残念！羊の毛刈りのショーや牛の乳搾り、牧羊犬の羊集めなどを見せてもらった。その後、ケーブルカーに乗り小高い丘に登り、ルージュに乗り滑降に興じる。ヘルメットをかぶり肘宛をしてちょっとした講習を受け、合格すると乗せてもらえる。始めは初心者コース、中級者コース、上級コースと進んでいく。スピードを落とせというところで落とさない無謀な若者は吹っ飛んでいた。どんな年齢層の人でもそれなりに楽しめる。頂上からの景色は素晴らしかった。夜は、車椅子で参加された先生のお声かけで、十数人で鹿肉を食べさせるというレストランへと繰り出した。あいにく鹿肉はなく食べられなかったが、夫の教え子が今は社会人となって、立派に活躍している姿を見るのはうれしいことだった。

次の日は、学会の計らいで、朝から森林ツアー。ニュージーランドは元々あった森林の木を全部切ってしまうと、牧場にしたいという。したがって、在来種の木がほとんどないという。今は、外来種の中からこの地に一番合った木、早く大きくなって、利用しやすいラジエターパインを主に植林しているという。植林と言っても、プランテーションのように畑という感じの土地に

植林していて、日本の植林と随分様相が違う。こんなに楽に手を入れたり、切って利用できたりするのでは、日本の林業は太刀打ちできないだろう。枝打ちの実演、9年経った木、30年経った木等見せてもらう。「Tree Farm」という言葉はここの実態を如実に表している。製材工場も見学させてもらった。私は初めてのことですごいと思ったが、夫に言わせると日本の製材工場の方が数段すごいとのこと。知らない分野のことは自分の中に基準がないから何を見てもすごいと思うものだ。そういえば、ルージュも、ある先生に話したら愛媛子供の国にあると聞きびっくりした。日本の方がもっと機械化されていて、人口400万のニュージーランドの工場の方が多くの方が働いているので驚いた。これはどういうことなのか。

どこへ行っても必ずどこから来たか聞かれる。日本だと答えると「こんにちは」とか何か日本語を言ってくる。それだけ日本人が多く訪れるということなのか、それとも日本語がいきわたっているということなのか。

ニュージーランドの道路は、交差点がロータリーになっている。道路の優先順が決まっていて、優先じゃないところには GIVE WAY (to the right) と書いてある。交通量の少ないこの地では、信号が無くてもこのルールで問題はない。日本ではとても無理だろうが。

夕方は、マオリ文化を満喫するツアーが用意されていた。薄暗い厳かな中で、例のマオリの踊り、歌、楽器の演奏が行われた。面白かった。その後マオリの料理（温泉の熱を利用するハンギ料理）のバイキング、学会参加者全員が集まったので、すごい人数。星がきれいで南十字星が見えた。帰りのバスの運転手が女性で、色々な国の歌を歌いながら、ロータリーではふざけてぐるぐる何周も回って、だいじょうぶかと心配になるぐらいだったが、明るく開放的な国民性を感じた。トゥダイ(today)マンダイ(Monday)という訛のある英語にはなかなか慣れなかったが、底抜けに明るい人々には癒された。

次の日、夫はモデレーター（議長・進行役）をするので朝早く会場へ。私はホテルの洗濯コーナーへ。隣に座った男の人に学会の関係者かと聞かれたので、夫が、学会に出ていて、私は同伴者だと答えると自分もそうだという。奥さんが学会に出ていてアメリカオレゴンから来たという。仕事は何かと聞

いたら、奥さんがフルタイムで働いているので、自分は 12 歳と 14 歳の息子の世話をするため、パートタイムの仕事だという。サッカーなどのスポーツのコーチをしたり、ボーイスカウトの世話をしているという。とてもがっちりした体格の、感じの良い男性だった。私の洗濯の乾燥が先に終わったので、また会いましょうと言って別れた。

昼は学会会場で準備していたので、バイキングを食べ、夫が 3 時半に終わるから、と言うので、それまで一人で、ロトルアの町をぶらついておみやげを買ったりした。イラン人の学生から、ニュージーランドのコインを集めて欲しいと頼まれていたので、出来るだけお札を使い、全種類のコインを集められるように考えて買い物した。物価は決して安くない。我々は、朝食はパン、ジュース、ミルク、ハム、野菜等を買っておいて、毎日ホテルで済ませていたので、買い出しの必要もあった。南半球は今初秋、まだ暑い中（20度～25度）歩いて行って、スーパーでハムとジュースとトマトを買ったが、レジ袋をくれないので、手でもって帰る。温泉にも入りたかったが、運悪く生理中で断念した。「Spa Pool」と言って、こちらの温泉は水着を着て入るプールといった感じだ。入った人の話では、色々な温度のプールが用意されていると言う。それにしてもロトルアはホテル・モーテル・民宿がいっぱいある。これだけの数の宿泊施設がつぶれずにやっていけるということは、それだけ観光客が多いと言うことなのか。驚きである。3 時半から車でタウポ湖というニュージーランドで一番大きい湖とその近くにある滝へいく。滝は落差は大してないが水量が多いため結構迫力があつた。

最終日は学会役員のミーティング。夫は役員ではないので、朝からワイトモという所にある、ニュージーランド特有のグロウワーム洞窟へ行つた。ここでしか生息しないツチボタルが見られる。鍾乳洞の奥を流れる川をボートで下りながら天井一面をびっしりと覆う幻想的なツチボタルの青白い光には魅了された。もう一つのアラヌイ洞窟は日本の鍾乳洞と大差ないが、ガイドが面白く、日本人だというと、韓国人じゃなくて良かったという。韓国人はうるさくていやだが日本人はおとなしくていいという。ほめられたのか？オーストラリア人夫婦とオーストリア人の女性、私たちの 5 人で回つた。ガイドの話す英語がゆっくりでわかりやすく、自分の英語力が急にアップしたか

と錯覚する程だった。帰り地熱発電所を見て、ホテルに戻る。夕方6時から、さよならパーティー。全員一応きちっとした服装でと言うことで、初めてスカートをはいた。色々な国の人たちと話し、食べ、飲んだ。私の隣に座った人は、南アフリカから来た人で、大学を退職して今は民間企業に勤めているという。例の洗濯場のオレゴンの男性を捜したが、人が多くて見つからなかった。彼の奥さんに会ってみたかったが残念だった。

次の日の朝、ロトルアに別れを告げ、同じ飛行機に乗る秋田の先生を車に乗せ、オークランドへ。天気が良かったので、オークランドの町を車で一周して飛行場へ。午後1時のマレーシア航空で帰路に就く。クアラルンプールまでは問題なかったが、クアラルンプールから関西空港へ向かう途中、ランディングのような音と衝撃、火を噴いたような明るさに目を覚ます。何かあったなと思ったら、機長の放送。エンジントラブルで、マニラへ緊急着陸するという。思わず、手を合わせ神に祈った。朝4時半頃何とか無事マニラ空港に着陸できてほっとした。一旦飛行機を降りて、近くのホテルへ。午後4時頃やっと新しい飛行機が、クアラルンプールから来て、それで帰る目途がたち、6時頃関空に向けて再出発。夜10時頃、関空に着いたので、もうその日は松山に帰れずホテルに泊まり、次の日松山にたどり着いたときははくたくただった。

トラブルや事故は常に起こる可能性がある。でも、その後の対応の仕方によって、人の感じ方は変わってくる。今回のマレーシア航空の対応の仕方にはいらいらさせられた。多少運賃は高くてもこんな時日本の航空会社ならテキパキ手配しただろう。現に、関空に着いたとき、マレーシア航空と提携している全日空の対応は素晴らしい。同じ飛行機に、今開催中の水フォーラムに参加する各国の代表の人が乗っていた。マニラのホテルで、私たち日本人は良かったが、スリランカの人やバングラデシュの人は入国管理官がパスポートを取り上げていた。マニラを出発するとき返されたと後で聞いた。

ただでマニラの街を見られたことをラッキーだと考えることもできるが、生きた心地のしない経験はもう一度でたくさんだ。いわゆる旅行ではなかったが、色々見て、考えさせられた1週間だった。 (T・H)

合併協議会を傍聴して

3月27日（木）重信町役場で重信・川内合併協議会を傍聴しました。

今回は、法定協議会に移行する大事な会だと聞いていましたので、傍聴者も多いだろうと考えて少し早めに役場に行きました。ところが、傍聴者より報道関係の人が多いのです。しかも、傍聴町民はたった3名のみです。あとは各町の議員でした。私は会議開催を学習会からの連絡で知って参加したのですが、大部分の町民は会議開催を知らなかったのだと思います。法定協議会移行決定は、川内町議会で3月10日、重信町議会で3月11日にされたと聞けば、なるほど、3月広報編集時には間に合わなかったでしょう。しかし、町民に知らせる方法は、新聞に載せるとか、町内放送をする等あります。おかしい現象ですが、町民は知らないのに、テレビや新聞の報道各社は知っていて15人程来ているのです。これでは“合併は住民を巻き込んで住民の意見を聞きながら進めていく”と言っていた町の方針に疑問を持つ人は多いのではないのでしょうか。

法定協議会への移行前に、校区别説明会開催を提案した重信町議もいたのですが、なぜだか町は実施しませんでした。その理由のひとつに合併相手の川内町の町議会議長が一年に4度も変わったという川内町議会の異常さが露出しても、重信町民から川内町との合併反対の意見が出なかったということがあるそうです。私はほんの僅かな差でも、アンケートの結果が川内との合併案を支持したのなら仕方ないという気持を持っています。しかし、アンケート実施後の川内町に起こった場外馬券場騒動を新聞で見ると、川内との合併に新たな不安も感じています。町内には私と同じ考えの人も居るのではないのでしょうか。それでも、3月27日午前9時40分“異議なし”の声と共に法定協議会に移行しました。

法定協議会では、事務局説明の中で今年8月には両町が合併協定書に調印の予定と聞きました。思わず指を折り、残り月数を数えました。5ヶ月の時間で協議し、監査し、調印するというあまりに性急な進行です。その背景には、川内町の問題で協議が6ヶ月間遅れたということがあります。

町民にとって大事な合併問題は、“時間がない”という言訳で済まされるも

のではありません。この残された時間を有効に活用する必要があります。委員会も協議会も月一度開催ではなく、何度も開いて頂いて中身のある論議をして欲しいものです。

また、議員は地元住民に対する働きかけや、合併報告会も積極的に行うべきではないでしょうか。諸伏議員が単独で出し続けている“酒だるだより”のように新聞折込を利用して、広く町民に知らせることも出来るのです。議会や議員は、町民の知る権利を確保するため、町へまた町民への働きかけが重要な役目ではないでしょうか。

さて、私達はインターネットや電話・FAXを利用して意見を言う事が可能です。継続協議の中には議員定数のこと、下水道事業のことも含まれています。協議会だよりは、これから毎月発行されるそうですので、それを読んだ意見でもいいのです。

私は、今日“どうせ言っても・・・”
の考えから“どうせなら言おう”の
考えに移行しようと思っています。(R.D.)

重信・川内
3/28 (愛媛)
法定協発足 協定項目など確認

8月ごろに合併調印

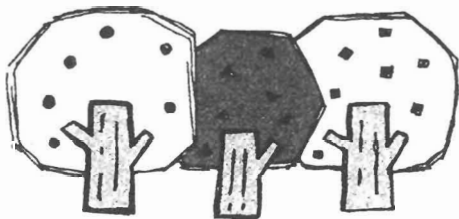
二町合併による新市発
足を目指す法定の温泉郡
重信町・川内町合併協議
会の初会合が二十七日、
重信町見奈良の重信町役
場で開かれ、任意協議会
で審議した協定項目など
を確認。今後、新市建設
計画などを協議し、八月
ごろに合併協定に調印、
人口三万人以上で市に昇
格可能な合併特例法期限
の二〇〇四年三月までの
合併を目指す。

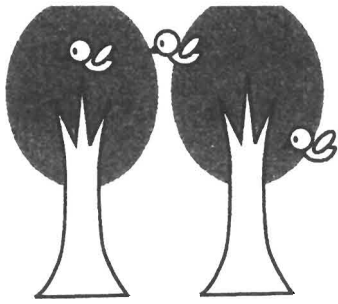
協議では、本年度の事
業計画など十一議案を承
認。新市建設計画小委員
会など三小委員会のメン

バーを選出。監事に牧澤
行、三棟義博の両委員を
選んだ。任意協で承認さ
れた二十四議案を確認、
継続協議となっている十
一議案を承認した。
閉会后、第一回新市の
名称選定小委員会(佐伯
正夫委員長、八人)があ
り、名称の募集内容など
を協議した。

和合に先立ち、第八回
任意協があり、同日での
任意協解散を決めた。法
定協の委員は三十八人で、
任意協メンバーのほとん
どが移行。顧問として、
夏井幹夫、泉松山地方局
長、柳沢正三、県議会議長
の両氏が就任した。
和合に先立ち、第八回
任意協があり、同日での
任意協解散を決めた。法
定協の委員は三十八人で、
任意協メンバーのほとん
どが移行。顧問として、
夏井幹夫、泉松山地方局
長、柳沢正三、県議会議長
の両氏が就任した。

和合に先立ち、第八回
任意協があり、同日での
任意協解散を決めた。法
定協の委員は三十八人で、
任意協メンバーのほとん
どが移行。顧問として、
夏井幹夫、泉松山地方局
長、柳沢正三、県議会議長
の両氏が就任した。





冬の庭

小鳥のうたにさそわれ見上げると、冬の真青な空に、裸の木が枝々を伸ばしています。

早いもので、この地に家を建てて15年あまり。それまでは、集合住宅に住み、庭のないくらしだったこともあり、一番はじめにしたことは木や花を植えることでした。

そのうち、鳥も植樹に参加してくれるようになりました。庭の一角にある棕もそのひとつです。大きく成長し、枝々を豊かに広げ、一年中“鳥たちのあそび木”となっているのです。

葉を落した枝にいる鳥を、よく見ることのできるのもこの季節です。「あ、メジロがきたよ」わたしの声に、夫や娘も、ときに猫のシャラも一緒に、窓ごしのバードウォッチングを楽しみます。

思うに、いちばん庭のことを知り、観察を怠らないのは、我が家の猫かもしれませぬ。猫は、たえず庭を見ながら「ニャ・ニャ」と小声で鳥のさえずりに応えるように鳴いたり、庭の隅々に至るまで、パトロールも忘れることはありません。

昨夜の雨が、木々の枝に真珠のように輝いているのを、起き抜けの娘が、「キラキラ光ってきれいだねえーシャラ？」猫に話しかけるのも冬の朝。

また、寒さの中に、黄木蓮や小金花、雪柳や桜などの花芽を見つけるのも冬の庭です。

「冬の庭」というと、心に浮かぶのはオスカーワイルドの“わがままな大男”の童話です。「わがままな大男の庭は、以前は花咲き実のなる美しいところでしたが、大男は立て札を立てて、子どもたちを閉めだしました。そのためか、春がこの庭をすっかり忘れてしまい、いつまでも冬のままでした。」という一節です。

若いころのわたしは、「冬の庭」とはこのように寒々しいものだと考えていました。ところがその実、落葉した木の根は、休眠に入る前には精一杯たくさん水分を吸い上げて、長い冬の間本当に枯れてしまわないように、備えをしているというのです。



わたしも、この寒い時期には、庭の木々にお礼肥を施すことにしています。あまり手入れもせず、今はやりのガーデニングとはほど遠い庭だけど、ふしぎと落ち着くのです。それは木や花や草、鳥や虫たちも、自然に近い状態にあるのかもしれない。

このところの地球環境のありようを思うとき、季節の巡りを当然のことと考えていましたが……。冬の大切な“いのち”の営みがあって、はじめて自然界が春を迎えることができるのだと思うことしきりです。

植物に関して知識の乏しいわたしが、最近知ったことのひとつに、冬から春にかけて咲く花（水仙・桜草・シクラメン・チューリップなど）は、冬の寒さに当てないと花を開くことができないということです。桜なども、冬の寒さの厳しい年は、花が美しいというのです。

深くうなづきながら、子どもを育てることに通じるものがあるようで、我が身を振り返る思いでした。

今年は、ことのほか庭のそこここに水仙の花がたくさん咲いています。

(H. M.)

4月例会のご案内

4月19日(土)

町民会館集合(9:30)

久万方面へいきます

参加される方は林まで連絡して下さい



くらしの学習会では随時会員を募集しています。

活動会費 2,000円/年 購読会費 1,000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL. FAX 089-964-6956(林)

E-mail kt-hayashi@nitty.com

内 町政の正常化要請

川 「住民の会」が町と議会に

温泉郡川内町の住民有志でつくる「明るい町づくりの会」（熊田慶一会長）が十三日、同町南方の町役場を訪れ、細川武雄議長と松末俊彦助役に町政の正常化を求める要請書を手渡した。

要請書によると、「大西勉町長は二、三数年来、給食センター改築計画の突然の中止や高知競馬場外馬券場問題での不適切な処理など、拙劣な行政運営は枚挙にいとまがない。議会も、町長の失政を看過したばかりでなく、相次ぐ正副議長の不信任や一年間に四人もの議長が誕生する事態など、本来の議会活動とはほど遠い内部抗争に明け暮れている」と批判。

これら混乱のため、「合併相手の重信町から抗議文が送られ、一部には『合併を白紙に戻せ』との議論も起きているなど、町は前代未聞の恥辱を受け、町民は泣いても泣ききれない心情に追い込まれている」とし、「町長と議員は、職責の重大さを深く反省し、町民のため町政を念頭に、一日も早く正常化に努められるよう強く要請する」としている。

細川議長は「チェック機能を果たすべき議会が異常事態になっていた。今後は、町民のために精いっぱい頑張りたい」と述べた。松末助役は「郷土を思う気持ちは皆さんと同じ。要請書は町長に伝える」と答えた。

重信・川内町議会 法定協移行へ

の前提として協議していた合併後の議員の任期や身分の取り扱いに関する三項目について合意。三ヶ月定例会で法定協設置案が審議される見通しとなった。

両町議会では、二月十五日に議長と合併関連特別委員会による初懇談会を開き、合併協議会から意見集約を求められている合併後の議員の定数と任期、選挙方式の三項目について協議。しかし全項目で方向性が違ったため、正副議長と合併特別委員長らが十一回にわたるすり合わせ作業を行ってきた結果、▽定数二四

二町合併での新市発足を目指している温泉郡重信、川内両町議会は五日、合併協議会の法定協移行

議員任期など合意

重信・川内町議会 法定協移行へ

市町村再編

3月6日 愛媛新聞



一般会計64億円など原案可決

重信町 (20日・定例) 六十四億円の二〇〇三年度一般会計当初予算など二十五議案を原案可決。政府に「平和の意見書」の提出を求める請願を採択した。決議一件を否決。意見書三件のうち二件を原案可決、一件を否決した。

主な事業は▽児童館建設費千二十万円▽合併対策費八千四百九十六万円▽北吉井小プール改修工事請負費二千五百八十三万円など。

桂浦善吾(無所属) 諸伏静江(同) 安井浩二(同) 佐伯強(共産) 藤田恒心(無所属) 浜田卯三郎(共産) 佐藤寿兼(同) の七氏が一般質問。

諸伏氏は学校給食の地元生産物導入の進捗よく状況について質問。岡省吾教育長は「三月から軌立に地元産のネギやコマツナなどを使用している。各小学校には農業体験学習として小豆の栽培を要請しており、地域農家をゲストティーチャーとして招く計画もある」と答えた。

▽任期は在任特例を適用▽選挙は全市一区とすること合意した。

佐伯正夫、細川武雄両町議会議長は「各議員が真剣に協議を重ねてきた。法定協にスムーズに移行し、さらに議論を深めたい」と話した。両町は二〇〇二年七月に任意合併協議会を設立、人口三万人以上で市に昇格可能な合併特例法期限の〇四年三月までの合併を目指すとしている。